

内 容

* ヴィレッジセミナー2013年 研修報告(9)

9. 地域社会統合

* ヴィレッジセミナー2013年 研修報告(9)

9. 地域社会統合

(Joe) 次はアリソンさん、スーさん、イザベルさんに、地域社会統合についてお話しして頂きます。

私たちはメンバーを、コミュニティに社会参加やレクリエーションの目的で連れていきます。目的はメンバーがコミュニティについて知識を得ることと、どのような資源がコミュニティに有るか、どのような事がコミュニティで行われているのか、ということを知ることができるからです。人はグループでは無く個人としてコミュニティに入っていきます。

私たちはメンバーがコミュニティにスムーズに入っていける様に支援するわけですが、それはメンバーがコミュニティにおいてどのような役割が持てるか、メンバーがそれを見つけていくことを支援することなのです。

ここにいる3人は地域社会統合のスペシャリストとしてヴィレッジで働いています。

それでは宜しくお願いします。

(3人) おはようございます。

(アリソン) 今日皆さんにお話しできることを、とても光栄に思います。

今はクリスマスの時期で、メンバーにとってクリスマスはとても悲しい時期でもあります。それは、メンバーは家族から疎外されたりしている人が多く、クリスマスを一人で過ごすことが多いからでストレスも多くなります。そのため我々ソーシャルワーカーは、メンバーが癒されて社会で生活出来るような対応をすることがとても重要です。

ヴィレッジの活動で一番良かったことは「地域社会統合」という組織を作ったことです。この組織が普通のケースマネージャーとどの様に違うのかをお話しします。

普通のケースマネージャーは10人から15人の小さなグループを対象に活動します。そしてこの場合強調するところは、メンバーが現実的な動きが出来るようにすることで、給与をもらえたり医療ケアが受けられたり、住宅を探してもらえたり、自分で買い物が出来たりするようにすることです。

これらは全て重要なことですが、それらを達成した後の事が更に重要かもしれません。基本的なこと、給与をもらい医療ケアも受けられ生活できれば、自然と社会に統合されていくと思いがちですが、その様に上手くはいきません。基本的な生活が出来ようになっても、家族や学校、友達と一緒に遊びに行くことが出来るようになる訳ではありません。私が担当していた方ですが、アパートに住み薬もちゃんと服用で来ていた彼が「アリソン、私は凄く寂しい、家に帰って私が見るのは四方の壁だけだ。壁を見ていると今飲んで



いる薬を止めたくなる。それは薬を止めると自分に聞こえる声が私に話しかけてくれるから」と言いました。

だからホームレスや長い間入院をしていた人などが、一人でアパートに住めるようになることはとても難しい事ではありますが、それを成功した人でもアパートでの生活に成功できるとは限りません。

地域社会統合としての私たちの仕事は、地域社会の人が助け合い相手も助けて欲しいということを理解し、彼ら自身が地域の中で自分の役割を見つけ出せるように支援することです。この支援が簡単であれば時間はかからずトントン拍子に行くのですが、簡単に行くことでは無いことを皆さんも良くご存じでしょう。

(スー) 地域社会に統合していくための障壁はスライドに挙げたように幾つもあります。その中でも私たちが良く遭遇するのは「交通機関」です。地域に住むメンバーを私たちが楽しいアクティビティに招待しても、彼らは現れません。彼のアパートに行っても彼をピックアップしない限り、彼らは来られないのです。

ロングビーチは電車バスなど色々な交通機関が発達していますから、彼らに電車やバスの使い方を教えることが一つの仕事になります。そして障害のある方は1ヶ月分の優待パスを購入する事ができますので、その様なことのお世話もしています。障害のある方でも、この様な優待パスを使って各自が動けるように支援しています。

次に問題なのは、コミュニティにいる障害のある方が持っている自己評価の低さです。この方々を知るために PSC の方たちも会っていますが、地域社会統合チームとしても積極的にお会いしています。関係性を構築するために散歩したりコーヒーを飲みに行ったり、住んでいるところの近くで散歩したりもします。メンバーによって内気な人も沢山いますので、色々なアクティビティにさそってメンバーが家から出て来られるようにサポートします。

以前アリソンさんが携わったメンバーさんで、大変困難だった事例がありますので、お話して頂きます。

(アリソン) この人は新しいメンバーで、誰もこの人の事を知りませんでした。この人はチームに来て既に1か月ほど過ぎていましたが、内気で誰とも親しくなりませんので、他のメンバーから「あの人は誰とも親しくないから、お話をしてあげて」と言われました。それで「問題ありません」と言って、その人を訪問することにしました。

彼女には住む家が有って、ボーイフレンドと同居していることも知っていました。

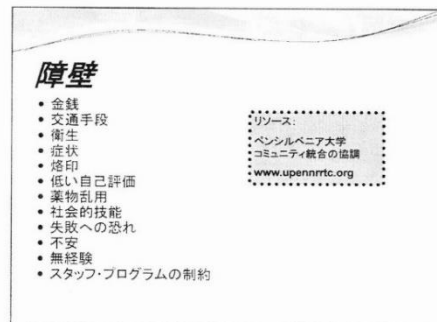
彼女の家に行きドアをノックしましたが返事が有りません。そしてまたノックしましたが返事は有りません。10分待ってみて、またノックしましたが返事が有りません。でも家の中でガサガサしている音が聞こえるので、誰か居ることは解ります。それで私は名刺に「私と会って下さい」と書いて、ドアの下から中に入れました。次の週私はまた行きノックをしましたが、また返事は有りません。それで何度かノックしましたが全く返事は有りません。それでまた名刺を用意しようとしたのですが、その時彼女は植木を持っていたことを思い出しました。彼女は植木が好きなことを知っていたので、私はお土産に植木を持ってきていました。そこで私は植木に「私を訪ねてください」と書いたメッセージカードを残して帰りました。その様にして毎週毎週彼女の所に行き、1ヶ月、2か月、3ヶ月が過ぎました。

その後やっと彼女は私を訪ねてくれましたが、彼女は私がメッセージを書いた名刺を束ねて持ってきました。そしてその時彼女は「この名刺の人は誰」と聞いてきました。私のノックにドアは開けてくれませんでした。彼女は私に「何度も持続して家に来てくれてありがとう」と言いました。その時から私たちの関係は築き上げられたのですが、どうしてドアを開けてくれなかったのかを説明してくれました。その理由は「私はずっと傷付けられてきました。また傷付けられるのが怖くてドアを開けられなかった」と言うことでした。

だから忍耐強く行動するという事はとても重要なことです。

(アリソン) その人の興味が何であるかということを見つけ、それに基づいて行動することも良いことです。

(スー) ヴィレッジではメンバーの人たちが精神保健のシステムに頼り切るようにならないように、なるべく



個人で社会統合が出来るように支援しています。でも最初にコミュニティに出ていくことは、とても難しいことですので、最初はヴィレッジの中のアクティビティに参加してもらいます。アクティビティにはラップやストーリーテリングなど色々ありますが、その様な活動をする事で自信をつけ、コミュニティに出ていく上でより心地良い状態が出ていける様に支援します。

(アリソン)「あなたのおかげでコミュニティに出て行けるようになった」という様な人も沢山います。メンバーで一人、とても散歩が好きな人がいました。ロングビーチには散歩するのに良い場所が多くありますので、私はそれらの場所全てに連れて行きました。バスで一緒に行くと、彼は一人で行ったときにもちゃんと帰り道が分かります。

自分は「働きたい」と思っている人は沢山いますが仕事に恐れを感じている人も多いので、その様な人にはボランティアをしてもらう様にしています。ボランティアというのは素晴らしい方法です。この様な人たちは周りの人から与えられることが殆どなのですが、ボランティアをすることで与える立場になれるのです。そしてボランティアをすることでお友達が出来ることがありますし、感謝されることもあります。

フードバンクで包装の手伝いをボランティアで行っている人がいました。彼の働き具合を見て周りの人たちが彼を好きになり、結果彼はそこで雇われることになりました。

ボランティアで長い間同じ所で働いていると、場所によっては彼らを学校に送り込んで専門的な仕事を習わせてくれることもあります。例えば学校に行っていない時は倉庫で働かせてもらい給与がもらえたこともあります。

ですからボランティアをすることで自分自身の考え方を換えられるチャンスが有るのです。

(スー) ヴィレッジではスタッフが自分の興味が有ることをヴィレッジに持ってくることを奨励しています。これは私たちのためなのですが、例えばバスケットボールや裁縫、音楽などを私たちが職場に持ってくることでバーンアウトを防ぐことにもなります。そしてそれは仕事に感謝することや自分自身のアップグレードにも役立ちます。バスケットボールにも行きますし、教会のコミュニティにも参加しますし、同じ趣味を持つ仲間も出来ますし、メンバーとの交流にも役立ちます。

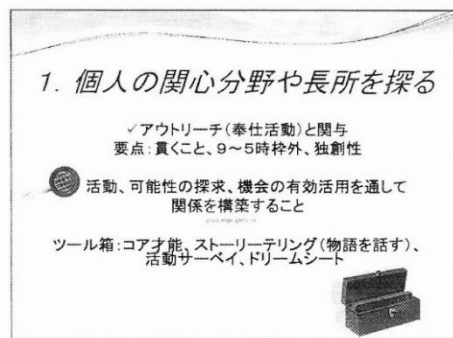
(アリソン)我々は丁度サンクスギビングのお祭りが終わったところで七面鳥を食べたりするわけですが、家庭でお料理をする機会も持ちました。私たちは近くの教会でサンクスギビングに無料で七面鳥と野菜を配布しているところを見つけました。この七面鳥を無料で貰うため私たちは署名をして申し込みをして協力しました。教会の唯一の条件は教会の集会に参加することで私は騙されたような気もしましたが、参加したメンバーの中には良い話が聞けたと喜んでくれる人もいたので良かったです。そして無事無料で手に入れメンバーが皆来られるようにバスの手配もしました。これはある意味メンバーと教会の間で関係性が出来たということでもあります。

(スー)メンバーの B さんという方がいました。彼女は以前大火事に会い、その事が精神病を発症する原因になりました。彼女が学校を卒業したときクリシナというグループと出会いました。そしてロサンゼルスにあるクリシナ教会に行きましょと誘われたので一緒に行くことにしました。するとそこではダンスをしたりキャンプをしたりしていました。すると突然一人ひとりに“火”を配り始めました。その時私は彼女が火事で精神病を発症したのを知っていたので凄く心配しました。しかし彼女は“火”が近づいたとき、“火”を受け入れるような動作をしました。私は彼女に「火を受け入れる動作は何故したの？」と聞きました。すると彼女は「私は聖なる火は怖くない」と言いました。

(アリソン)実は彼女はストーブの火も点けられない位だったのです。ですからスピリチュアルなことで克服できたということはとてもビックリしました。

私たちの仕事の中で、この様なスピリチュアルなことは忘れがちになるのではないのでしょうか。

グループでこの様に楽しいことも行います。エンゼルススタジアムの前ですが、この写真を私が好きな理



由は「誰がメンバーか、スタッフか分からないでしょう」というところ
です。この様に頑張って外に出てアクティビティに参加する人には
チケットを提供することも可能です。そして外に出たくないという様
な人でも野球が好きと言う人は多くいますので、野球のアクティ
ビティはとても有効です。その様にして信頼関係を築いていきます。

この様な事をするのが、良いことの始まりとなります。

(スー) ヴィレッジには送迎用のバン(車)があります。そしてバン
には所属先などの表示は何もありません。この様に私たちは個人
のプライバシーを守っています。私たちはメンバーをコミュニティに出す時、「貴方たちはどの様に紹介され
たいですか?」と事前に確認します。「友達と紹介して欲しい」等の希望が有ります。この様な時での我々
はメンバーとの間に一線を画す必要があります。コミュニティで共に活動していくうち、私たちとメンバーは
本当の友達と思われるようになります。

しかしメンバーたちに、我々は貴方たちを支援するのに給与をもらっていることをはっきり言わなく
てはいけません。メンバーが私たちが本当に友達と思っていた場合、メンバーに「貴方は友達にどの様な
事を望んでいますか?」と聞く事ができます。

(アリソン)メンバーにとっては、地域のリソースをどの様に知り、
活用するかが問題です。特にチームでは、例えばバスの障がい者
優待パスの取り方やボーリングリーグの応募方法などです。以前ボ
ーリングを良くやっていたメンバーですが、ホームレスの期間が長く
長年ボーリングをしていませんでした。その人は学生時代とても凄
いボーラーだったそうです。PSC と一緒にボーリングに行くようにな
ったので、PSC は近くのボーリング場にリーグが無いかを探しまし
たが、そこでは初心者用のリーグしかありませんでした。それで仕方なく初心者のリーグに参加しました。そし
てこのリーグはラスベガスでリーグの決勝戦を行うことになりました。我々はラスベガスに移動するというこ
とで凄く心配し、ケースマネージャーが彼を車に乗せていくと提案しましたが、彼はリーグの中で友達を作り、
その友達の車で一緒に行きました。

この様にコミュニティで友達ができステップアップすること、我々はこの様な事を期待しているのです。

私たちがボーリングに連れていくのではなく彼自身で行けることです。仕事として考えると忍耐が必要で
す。そして成功することも有れば失敗することもあります。

この写真は最近行ったアクティビティの様子です。マラソン大会
なのですが、給水所のボランティアが必要だったのでメンバーとスタ
ッフが大勢で参加しました。後ろにコップで水を提供しているのが見
えます。殆どのボランティアは白のシャツを着て水を渡すだけでした
が、私たちは給水所を楽しく大会のテーマがカントリーウエスタンだ
ったので、メンバーの人が作った衣装をスタッフが来て踊りました。こ
の衣装を作るのにメンバーは何週間もかかりました。広告や看板も
作り、ラインダンスも練習して臨みました。そしてこの大会でベスト給水所賞を受賞しました。

実は審査員の中に地元の警察官がいて、頻繁に警察のお世話になっていた彼を知っていてヴィレッジ
のメンバーたちの給水所だと理解していました。そして彼らが立派に仕事をこなし賞まで受賞したことを大
変喜んでくれました。

もう一枚は会場近くに無料で気球に乗れる場所があり、そこで撮ったものです。高所恐怖症の人もいま
すが、それでも何度も行く人もいます。

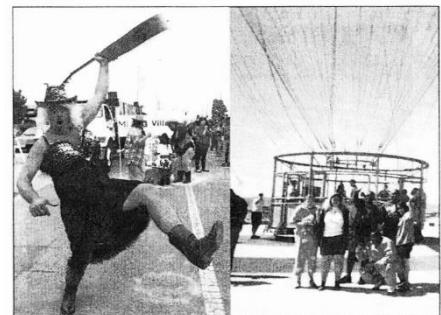

(スー) ヴィレッジではメンバー自身の意思決定を非常に重要視します。昨日は皆さんと一緒にコミュニ



2. 社会的機会

- 一般コミュニティ情報・リソース - 自分の所属コミュニティを知ること
- コミュニティ開発 - 興味の対象となるリソースを特定し、歓迎される場づくりに専念すること

スタッフの新しい役割 -
自分の興味内容を共有し、
笛とクリップボードを置く(隔された意味は
社会関係を意識した個人主体の活動を目標)こと!



ティに行きました。ミッシェルさんのチームはマクドナルドに立ち寄り
ましたが、一人の人が「このマクドナルドはダメよ」と言いました、
「何故？」と聞くと、「ここはコーヒー飲み放題なのに私を差別し
て、店員が「あなたコーヒー何杯目ですか」と言ったのです。だから
私はこのマクドナルドは嫌いです。」と言うので、「判った、ここに
マクドナルドは 20 か所も有るから他に行きましょう」と言って他のマ
クドナルドに行きました。彼女は別のマクドナルドに行ってくれたこ
とに対してとても感謝していました。

彼女が気分を良くしたのは、彼女の気持ちを私たちが重要だとして受け止めたからです。この様な小さなことでも重要な意味を持つことが有ります。

(アリソン)よく言われることですが、大人と大人の間を構築することです。

社会的技能の事について少しお話したいと思います。

多くの人は人との付き合い方について多くの問題を持っています。その様な社会性の面では、グループ
でアプローチする場合がありますが効果があまり見えないことが多くあります。一番良いのは本人を地域に
連れていくことです。私は人々に対して一方通行のお付き合いは良いことでは無いと思っています。多くの
メンバーは日々の生活を何とか過ごしている人たちです。しかし他の人から何か言われるのではないかと
何時も考えています。皆さんも利用者さんと関わっている中で、同じようなことを感じているかもしれません。
ですから時間を過ごす中ではお友達のように係わるよう心掛けていますし、たばこを 1 本もらうやお金をも
もらうなどはしてはいけません。勿論、自分がやって欲しいように他の人にしてあげなさいということです。

友達の作り方で、人によっては、これもあれもとあげたがる人もい
ますし、これもあれもと欲しがり周りの人を利用する人もいます。

(スー) 私たちがもっと実践しなくてはいけないと思っていること
は、マインドフルネスです。これは皆さんが我々から学ぶことが出
来ると思います。マインドフルネスというのは、気持ちを落ち着かせて
時間をおいて、今自分が感じていることや考えていることを認識
して瞑想することや、気を静めて意識的に物事を考える、というこ
とです。

このマインドフルネスを私たちスタッフは毎日行う様にしています。

※マインドフルネス (mindfulness) : 今この瞬間の自身の精神状態に深く意識を向けること。またそのために行われる瞑想。
(出典: デジタル大辞泉; 小学館)

(アリソン) 地域社会統合の一環として他に行っているのが、文化の創出ということです。

「時間を取って楽しむ」「誰かが何か良いことをしたとき、その成功を祝う」「失敗を非難しない」等です。

次は今迄の話にも出てきましたが、社会的資本の話です。

ボランティアなどをしながら自分たちの新しい役割を見つけていく
ということ、そして社会にあるリソースを利用していくことです。

この写真もマラソン大会の給水所です。

次の写真の方ですが、彼女はメンバーですが酷いリュウマチを患っています。活動はあまり活発には出来ませんが、育った環境にいつも馬がいたそうです。それなので、いつも馬の近くに連れて行くようにしています。馬に障害のある子供を乗せて散歩するとい

3. 社会的技能の構築

実質上の社交性をコーチングする。
社会性コーチングとロールモデル
ウェルネス・リカバリー・アクション・プラン (WRAP) -
一点集中型 WRAP を含む!
弁証法的行動療法 (DBT)
ライフコーチング・ピアサポート (相互支援)
ジョブクラブ

4. 文化の創出

- 楽しさを演出する。
- 成功を祝う。
- 失敗を非難しない。
- 祝日はプライムタイム
- 楽しみのための予算化
- 文書化と請求書の作成
- マーケティング



5. 社会的資本

- 一回に付きひとりか、一グループ
- 模範を示して教育する。
- コミュニティ関与を促進する。
 - 奉仕活動
 - 近隣地域の清掃活動
 - コミュニティ庭園
 - 市民参加
 - 地元実業界とパートナー提携



う活動があり、彼女はボランティアでそれを手伝っています。彼女は障害のある子供が自分の様な感じがして、このボランティアを凄く楽しんでるそうです。

(スー) クリスマスが近づいていますが、ヴィレッジでは 4 年前からクリスマスホリデーパーティーを、コミュニティでスタッフとメンバー一緒に行っています。

(アリソン) それまではヴィレッジの建物の中でパーティーを行い、メンバーと一緒に飾りつけや物作りをやっていましたが、あまり成功していませんでした。苦情も沢山あり、メンバーの中には行動の良くない人がいたり、迎えに来てくれなければ参加しない人がいたり、スタッフでも参加したくない人もいました。地域社会統合担当の一人が「それならコミュニティで行えば良いのでは」と言って、近くのコミュニティハウスを見つけてきました。そこでコミュニティハウスと交渉して、そこでクリスマスパーティーが出来るようになりました。

(スー) 経費は 350 ドルですが、コミュニティハウスに 250 ドル支払いコーヒーやホットチョコレート飲み放題にして 4 時から 6 時までには時間を制限して開催しました。残り 100 ドルは予備費にしました。

(アリソン) そこには大きなスクリーンモニターもありクリスマスの映画などが上映されました。そしてヴィレッジのスタッフとメンバーだけでなく地域の皆さんも立ち寄りますので、リラックスした雰囲気です素晴らしいパーティーになりました。

私たちがコミュニティに移ったことで成功率が高まりました。凄く良かったと思います。

次の写真は毎年行っているウォーキングイベントの様子です。これは精神病のスティグマを無くそうと実施しています。私たちは準備をするとともに一緒に歩きます。そしてヴィレッジでは以前からメンバーが学校に戻れる様な支援もしています。

(スー) メンバーは自由な時間を多く持っている人が多いので、出来れば学校に戻れるよう支援を続けています。学校に戻ることがメンバーにとって有意義な発展につながると共に、その後に雇用にもつながるチャンスが多く生まれます。

(アリソン) 次のスライドは我々が使用しているリソースのリストです。夫々オンラインで見ることが出来ます。

一番下の「精神疾患を持つ成人のためのオンライン社会的コミュニティ」について私たちは未だ使っていませんが、これはウェブサイトで精神を病んでいる方たちの出会い系サイトです。

(スー) 私たちが行っていることが、メンバーのリハビリテーションや地域社会統合に繋がることの役に立っているのだろうか？と質問します。もしそれが役立っていないのなら、他にどの様な方法があるのかを考えます。

以上で終わりになります。


有り難うございました。

—編集後記— 今回の研修報告は、10 年経った現在でも我々にとって中心の話題であり基礎となっている内容です。このこととつながる身近な話題として、皆さんの地域でも医師会を中心に既に取り組みされていることと思いますが、我々の地域ではようやく《電子連絡帳》と呼ぶシステムに相談支援事業所が入ることができ稼働し始めました。診療情報・服薬管理・介護記録・ショートステイの空床情報など地域での連携システムです。個人情報保護など問題は山積していますが地域社会が一つになる大きな一歩になると良いと思います。(m.shiida)

特定非営利活動法人 精神保健福祉交流促進協会



キャンパスサービス



- ・ゴールプランニング・学問的調査
- ・入学手続き
- ・学資援助
- ・キャンパスリソースに連携
- ・自己支援運動
- ・社会的支援
- ・ストレス管理

・スタディグループ、助言と援助

ツール、リソース、参考資料

- ・コア情報
www.communityactivators.com
- ・奉仕活動機会データベース
www.voluntermatch.com
- ・薬物乱用とメンタルヘルスサービス管理機関・スキル小冊子と他の役立つ情報:
www.samhsa.gov
- ・評価基準
www.intentionalcare.org
- ・WRAP、および他の関連資料
www.mentalhealthrecovery.com
- ・弁証法的行動療法、マッシュ・ラインハン博士
www.dhsehelp.com
- ・精神疾患をもつ成人のためのオンライン社会的コミュニティ
www.nolongerlonely.com